

令和５年度 宮崎県立都城さくら聴覚支援学校 学校関係者評価						
学校目標	幼児・児童・生徒の個性を重んじ、一人一人の障がいの状態や発達段階、特性等に応じた指導及び支援を行い、その可能性を最大限に伸ばすことで、自立し社会参加できる人間の育成を目指す。					
目指す学校像	(1)子供たちの可能性を引き出し個性を育む学校 ①幼小中高の一貫教育の推進。発達段階・実態に即した指導法の工夫・改善 ②異なる価値観を認める心、互いを尊重し認め合う心の育成 ③健康に過ごせる環境の確保と充実 (2)子どもたちが夢を描き、その夢を叶えられる学校 ①発達段階に応じた言語力・基礎学力の向上 ②キャリア教育の充実。多様化する生徒一人一人の希望進路への対応 ③施設・設備等、適切な教育環境の確保 (3)職員がやり甲斐をもって、互いにいきいきと過ごすことのできる学校 ①研修時間の確保による教職員の専門性向上 ②組織的かつ機能的な学校運営 ③働き方改革の推進 (4)聴覚障がい教育のセンター的役割を果たす学校 ①家庭、関係機関との連携強化 ②地域における聴覚障がい児教育のセンター的機能の発揮 ③開かれた学校づくりの推進					
R5年度経営ビジョン	「温故置新」～創立96年 次の100年に向けこれまでの積み重ねをより良い形で置き換えていく～ (1)「新学習指導要領」に則った教育改善 ①教育課程のPDCAサイクル確立（評価含む） ②自立と社会参加に向けた教育の充実 (2)社会の変化にあわせた学びの環境整備 ①感染防止対策に重きを置いた授業・学校行事の整理 ②情報教育の強化、ICT機器・アプリの有効活用の研究 ③「新しい研修制度」の有効活用と意識改革の推進 (3)働き方改革の推進 ①いっそうの業務の効率化 ②コンプライアンスの徹底 ③専門機関・地域との連携強化					
評価項目	評価指標	自己評価	保護者評価	学校の自己評価（成果・課題等）	学校関係者評価	学校関係者からの感想並びに提言等
個性を育む学校 （１）子供たちの可能性を引き出し	子供たちの各課題に応じた授業が実施できていますか。	2.9	3.0	○ 本校でも実態の多様化の傾向が見られ、「子供たちの各課題に応じた授業」が課題となっている。基礎学力の向上や生きる力の習得に向けて、更に工夫の在り方を検討していきたい。また、家庭での学習習慣や生活リズムについての相談も非常に増えている。保護者との連携や家庭教育の在り方についても発信していく必要がある。	2.8	Ⅰ 教育活動全般について ・コロナの制限がなくなり、多くの教育活動や指導場面を見ることができた。日頃から幼児児童生徒の理解に努められ、一人一人の個性に応じた指導が行われている。児童生徒の各々の課題はありつつも集団の力によって伸びているように感じた。 ・特に体育祭、文化祭では、先生方が児童、生徒一人一人としっかり向き合っている様子がわかった。中学部、高等部の生徒が生き生きと学校生活を楽しんでいる姿を保護者が見て、安心されていると痛感した。 ・基礎学力については、乳幼児相談・幼稚部からの丁寧な関わりの積み重ねが重要。手話はコミュニケーション、信頼関係を築くために不可欠だが、手話の使用が学力面などの課題を全て解決するわけではないところが難しい。今後も教育効果に繋がる実践を重ねて欲しい。 Ⅱ 施設・安全面について ・寄宿舎の老朽化が心配。改修工事が早期に実現することを望む。 ・情報表示システムの設置に安堵した。 ・単独で登下校する児童生徒は少ないが、公共機関を含め災害時の適切な行動について学習を進めてほしい。
	幼小中高で連携し、一貫性のある指導が実施できていますか。	2.6	3.1	○ 本校の課題の一つで、今年度も様々な場で情報交換や共有を進めてきた。コロナ禍を経て教育活動を精選する中で、各学部での発達段階の違いから、「一貫性」という点で十分に調整できなかった点も見られている。本校ならではの視点で各段階の目標を見直し、より良い形を模索していきたい。	3.0	
	自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、人権や社会的ルールを踏まえた行動ができるような指導ができていますか。	3.0	3.2	○ SNSやオンラインゲームに関するトラブルの低年齢化が進んでいる。家庭でのルールづくりなどもお願いしながら、自分も友達も大切にする意識を育てていかなければならない。能登半島地震に対して生徒会役員が積極的に募金活動を行ってくれた。それをきっかけに被災された方の状況や自分たちにできることは何かなどについても話題にしたところである。様々な場面で命や人権の大切さを、本質的に捉えられるよう指導していきたい。	3.1	
	施設や学校設備（遊具含む）の整備や環境美化がなされていますか。	2.8	2.8	○ 今年度は学校前の道路拡張に伴う大規模工事ははじめ、冷房設備工事など工事が多かった。動線や安全面では配慮をしながら進めてきたが、不便な点や制限が出たところもあった。次年度には国体に向けて体育館床の補修工事も行われる予定である。子供たちの快適な教育環境にも繋がる工事であるが、引き続き事故の防止に努めたい。寄宿舎の老朽化へのご意見も多く聞かれるが、県教委の計画に沿って今後改修が予定されている。	3.0	
	感染症などの病気の予防と対策がなされていますか。	3.1	3.2	○ 新型コロナが５類となって以降は県教委の指導に従い対策を実施してきた。集団感染や感染症によるいじめや人権侵害といったトラブルもなく、保護者の理解と協力には感謝している。校内では地域の状況を踏まえて注意喚起を行い、体調不良への迅速な対応や場に応じたマスクの着用等を臨機応変にお願いしている。教育活動をほぼ予定通りに実施することができた。	3.3	
	災害への対応について、適切な行動の指導や必要な準備がなされていますか。	2.9	3.0	○ 長年要望してきた情報表示システムがようやく設置された（モニター校内11台、寄宿舎2台）。緊急時の円滑な活用を進めると共に、情報を自ら把握しようとする意識を高めていきたい。今年度は不審者対応についても各学部で取り組み、中高等部については生徒を交えた実践的訓練も実施した。	3.0	
その子どもたちが夢を描き、	授業において、言語力や基礎学力の向上を意識した指導が実施できていますか。	2.9	2.9	○ 言語に関する諸検査等および対外テスト等も活用し、その結果を保護者とも共有しながら言語力や基礎学力の向上に取り組んでいる。新出語句については、文字、指文字、手話、音韻を合致させて指導を行うことを共通の配慮として取り組んでいる。定着に課題があるため、宿題等の取り組みも工夫していきたい。	2.8	Ⅲ キャリア教育・進路指導について ・多様な学びが求められる中、個に応じた相談体制や保護者との連携を図りながら適切な進路指導に取り組んでいる。 ・対外テストの活用と結果共有は大切な取り組み。各教室に手作り教材が掲示され感銘を受けた。（ICTなど）時代に即した教育方法の実践、素晴らしい。 ・卒業後の支援は、本人、保護者にとって心強いと思われる。 ・地域の学校に進学する児童生徒も出てきている。選択肢が広がるのは良いことだが、聴覚障害についての理解や支援には課題もあるのではないかな。 Ⅳ 地域との連携・理解啓発等について ・南九州大学との包括的連携協定による教育実習やボランティアの実施、西小中学校との交流や協力、職員の研修など、都城地区での連携を引き続き充実させてほしい。都城市内の通級（ことば）とも連携をお願いしたい。 ・これからも地域のセンター的役割を担う機関として期待している。 ・「学校の様子を知ることができる」の保護者の満足度は、先生方の努力そのものの表れだと思う。 ・一人の児童・生徒さんに多くの大人が関わっているということは心強い限りだと感じた。 ・高校生のスピーチの内容は、幼稚部や小学部の保護者にとっても明るい指針となるような中身。先生方の日々の教育活動の積み重ねの成果だと感じた。 Ⅴ 職員の専門性、働き方について ・職員の手話力向上など日々研修をされている。今後自立活動の視点からも専門性豊かな研修を望む。 ・多忙な業務の日々であるが、学び会う時間を確保できると良い。研修会の実践、素晴らしい。指導教諭の存在も心強い。 ・先生方が心身共に健康であることが一番に取り組める職場環境を作っていただきたい。
	教材教具の工夫や配慮が実施できていますか。	2.9	3.3	○ 今年度も全職員が指導案を元にした研究授業を行った。学校全体で一貫した視点や有効な支援の共有がなされると更なる教育効果が期待できる。ICTも活用し有効な教材等について校内で共有を図りたい。	3.1	
	行事や体験学習などにより、経験を広げることができていますか。	3.0	3.3	○ 今年度は、交流活動、校外学習等がほぼ予定どおり実施できた。本校の子供たちにとって直接体験による学びが大きい。一方で行事の負担過多となっている部分もあるため、引き続き、目的の明確化や教育効果の評価も行いながら精選を進めていきたい。	3.3	
	個々の実態に応じた進路指導が実施できていますか。	2.9	2.9	○ 高等部1名が大学、中学部から2名が私立高校に進学、また幼稚部からは1名が地域就学を選択した。進路決定までは、本人、家族と時間をかけて相談し、課外や面接指導等を含め校内職員が様々な形で関わりながら進路実現に向けて取り組んだ。卒業後も、障害の理解や適切な支援について十分連携をしながら進めていきたい。	3.0	
	I C T の活用を含め、時代に即し、障がいに対応した教育環境が整っていますか。	2.8	2.8	○ 今年度は県教委のICT研究推進校として、授業でのICT活用を進めてきた。ICT教育推進リーダーを中心に、校内研修や外部講師による研修も行い、全職員がICTを用いた授業にも取り組んだところである。実践事例集を作成しクラウド上で共有しているので、それらも活用しながら更に活発化していきたい。	3.0	
互いにいきいきと過ごすことのできる学校 （３）職員がやり甲斐をもっている	障がいの実態に応じた指導・支援が日々実践できていますか。	2.9	3.1	○ 聴覚障がいに関する研修や手話の習得など全職員が熱心に取り組んでいるが、実践経験の職員差は非常に大きい。聴覚障害独特の書記日本語の指導や教科指導の内容の精選について悩みを抱える職員も多い。学び合いの時間の確保が今後の課題である。	2.8	
	（職員のみ）研修を実施し、職員の専門的指導力の向上に取り組めていますか。	3.0		○ 昨年度から県聴覚障害者協会の方に新任者手話研修会の講師をお願いし、月1回程度の研修を継続している。正確な手話を知ると同時に、聴覚障害児者との関わり方等についても多くの学びを得ることができた。今年度はさらに3年目以上の職員についても、校内職員を講師に手話研修会を行うなど専門的指導力向上に努めた。	3.0	
	（職員のみ）校内でのO J T を推進し、課題に対して組織（各部）で取り組めていますか。	2.8		○ 業務に多忙感のある中で、本校の専門性や本校独自の様々な取組について引き継いでいくことは容易ではない。指導教諭2名が模範的に授業を設定して参観の場を設けたり、経験のある職員とない職員を組み合わせる業務にあたったりと組織としてできる工夫をしているところである。	2.7	
	（職員のみ）働きやすい環境作りについて取り組めていますか。	2.8		○ 在籍数減に伴い職員数が減少していることを背景に、多くの職員が多忙感を抱いている。根本解決に至らない部分もあるが、業務の精選を引き続き行いながら、ICT活用なども推進し、職員が心身共に健康に業務に取り組めるように改善に努めたい。	3.2	
センタ－的聴覚障害を果した教育学校 （４）	学校での様子を懇談や連絡帳等で知ることができますか(知らせることができていますか)。	3.1	3.3	○ 保護者の満足度に現れているように、連絡帳や懇談、学校携帯（メール）を用いて細やかな連携がなされている。ただ、進学により学部が変わった時に、新たなやり方に戸惑った保護者も見られ、同じ学校であるからこそ丁寧に伝えていく必要がある。	3.0	
	子供のことを相談しやすく、ニーズに応じた支援（専門家や関係機関との連携を含む）ができていますか。	3.0	3.0	○ 個別の相談事項については、学級から学部、必要に応じてコーディネーターや外部機関というように、連携を図りながら進めている。発達の部分での課題については公認心理師を交えた発達相談会や関係機関が揃ったケース会等も実施した。情報共有により有効な指導支援に繋がった例もあり、今後とも子供たちや保護者の困り感やニーズに対して迅速に対応できるようにしていきたい。	3.0	
	教育相談体制の充実を図り、地域における聴覚障がい児教育のセンター的役割が果たせていますか。	3.1	2.9	○ 昨年度に比べ、更に乳幼児教育相談は増加、小中高校への巡回相談等も増えている。聴覚障がい児・者の理解、特に合理的配慮については十分な理解に至っていない部分も多い。引き続き、本校の大きな役割の一つとして力を入れていきたい。	3.0	
	地域に学校の取組や必要な情報を伝えることができていますか。	2.8	2.6	○ 高等部3年生の手話スピーチコンテスト出場を各種新聞で取り上げていただき、全国から大きな反響があった。ホームページ更新については、業務過多な中での課題であるが、寄宿舎が頻繁に更新した。今後メディアの活用を含め、本校の情報発信を積極的に行いたい。	2.7	